

東京学芸大学 DX・AX推進ロードマップ

～ AI協働 (AX) を前提とした合理的かつ持続可能な大学運営と先導的教育研究の実現 ～

単なるデジタル化(DX)の枠を超え、教職員協働のもと業務プロセス・役割分担を見直し、AI時代(AX)を牽引する総合的・先導的な教育の中核大学へ



STAGE 1 [R8 ～ R9中期]

★DXの土台形成

徹底したデジタル標準化と基盤整備

STAGE 2 [R9後期 ～ R11]

★DXからAXへの転換点

プロセスの抜本的見直しと本格的なAI協働の試行

STAGE 3 [R12 以降]

★継続的改善文化の定着

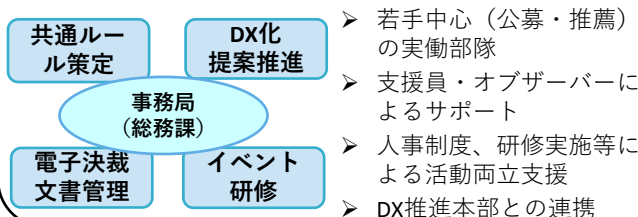
自律的AXの定着と先導的成果の社会還元

推進基本方針・ロードマップ・ガイドライン等の見直し・改訂・周知 (随時)

教育 DX 	- 学修環境や授業実施プロセスの可視化 - 教育データ基盤の整備検討開始 - 教員のAI活用基礎形成	- 学生支援データの全学連携 - 学修成果の可視化とデータ・AIを用いた個別最適な学修成果分析・支援	AIによる学修・実習・キャリア形成の伴走支援
研究 DX 	- 研究データ基盤整備 (研究成果アーカイブ、研究者プロフィール統合等) - AIによる研究支援の整備検討	- AIによる研究支援の開始 - データ基盤を活用した研究の充実・発展 - 研究成果の発信とオープンサイエンスの推進、関係機関との連携強化	AIによる研究支援の高度化による研究専念環境の完成と研究力最大化
附属 DX 	- 大学と附属学校園、附属学校間における円滑な情報共有ルール策定 - 校務情報、実習情報等の附属情報間のデータ連携	- 附属学校園での「教育実践・研究実践データベース(DB)」の共同構築 - AIを活用した「東京学芸大学附属モデル」(授業支援、個別学習支援、教師支援等)の実証実験 - 実証実験成果を通じた大学との有機的連携	「東京学芸大学附属モデル」を全国自治体へ提供 - 現職教員も利用可能な全国共同の研究基盤の整備と提供
業務 DX 	- 業務標準化、照会削減 - 電子決裁システム本格導入 - 業務改善提案、実装支援 重点予算確保 - DX・AX人材育成 - 取組事例収集・横展開	- 電子決裁システムの全課室導入 - 部局横断の業務改善 (AI及びデータの活用を促進) - 定型業務の標準化及び自動化 - STAGE 1の成果を活用した戦略的予算要求	- AI活用を前提とした業務運営、企画・分析等、高度日常業務の定着 - 継続的・自律的な改善文化の確立 - 教育・研究・業務改革を支える持続的財源確保

業務 DX 推進体制

「大学運営DX検討・推進チーム」の活動推進



移行

全学の推進司令塔組織を創設

DX・AX推進室 (仮称)

- DX推進本部事務局となる
- 基本方針改訂 (AXへ転換)
- 推進員、AI人材の育成 (研修等)
- 成果の可視化と全学発信
- 抜本的な業務改善提案と実行 等

各課室にDX・AX推進員を配置

- 各課室で継続的な改革を実行

